
■■■日本世代間交流協会ニュースレター 2014年9月号■■■

さわやかな秋風が吹く季節となりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。3ヶ月に一度の定期刊行のニュースレター、9月号をお送りします。

【目次】

1. 活動報告
2. 活動予定
3. 出版物の案内
4. 「会員の声」
5. 「会員の声」募集
6. 次号（12月）の予定

【1 活動報告】

■世代間交流コーディネーター養成講座■

2014(平成 26)年度第 8 回世代間交流コーディネーター養成講座開催
—8月29日・30日 19人参加で成功（盛況・感動）裏に終わる—

当協会と白梅学園大学との共催のこの講座も、今年で8回目を迎え恒例化してきています。初めはかなりの参加者数でしたが、少し減ってきて数人という年度もありました。しかし、今年度は19人集まり、充実した2日間で、受講者全員に「受講認定証」を授与することができました。

参加者は兵庫教育大学の大学院生が兵庫県から、都内・取手市・厚木市から、現職の保育士、ケアマネージャーや大学教員の参加があり、一番多く参加したのが、国際福祉専門学校からの15名さまざまなキャリアを持つ学生たちでした。

今年変わったことは、一つには、体制上のことがありました。昨年度までは文部科学省の助成が出ていましたが、それが終わったため、「白梅学園大学教育福祉研究センター」の中に位置付けられた附属幼稚園・地域交流センター分として少しついた予算の中からの一部と受講料とで運営することになったということがあります。そのため、学外からの講師

等にも軽費ボランティアの精神で引き受けていただいたということ、受付などのお世話役もそうした協力者のおかげで進めることができたということです。

もう一つは、本講座の顔役である草野会長が整形的な病気の療養中のところを、本講座で療養開始後初めての復帰講義をされたということです。「世代間交流とは何か」のお話をするため、タクシーで出向、コルセットを活用しつつ、熱心に話されたことが、参加者の胸を打ち、その熱意に感激している感想もありました。

内容は、第一日目に江東園での実習、二日目に白梅学園大学内での講義、と自己紹介を中心としたワークショップで以下のような順序で行われました。

一日目は、午前中は幼老統合の姿の見学（参加実習も可）と理事長のお話
午後は、杉啓以子氏の講義と施設見学そして実践のビデオ視聴、

二日目は、午前中は

① 草野篤子氏の講義「世代間交流とは何か―世代をつなぎ地域を再生する」

午後は

② 金田利子氏の講義「人間の生涯発達と世代間交流―相互発達理解とE S Dを目指す生き方につながる地域づくり―」

③ 安永正史氏の講義「高齢者による異世代支援・世代間交流が本人および周囲にもたらす効果に関する研究」（事前プログラムにはなかったが、特別に賛助講演をお願いした。）

④ 自己紹介およびここで何を学びどう生かしたいかなどの意見交流

⑤ 多湖光宗氏の講義「養老統合ケアと世代間交流」

江東園の見学実習での今年度の特徴は、雨模様のため、朝の体操を室内でやっているところに初めて出会えたことがあります。中の場合、外よりは狭いので高齢者と子どもたちの距離が近くなり、子どもに中に入って関わるという状況が目当たりになったように思われました。体操の後も、中から中への移動のためか、進んで子どものクラスに入って遊ぶ高齢者の姿がよく目に入ってきました。そして自然に高齢者の膝の上に乗る子の多いことに、以前よりも交流が一層自然になってきているように思われました。

【参加者の感想から】

皆多くのことを学ばれており、企画して講義もしてきたスタッフの側が逆に学ばされるような具体的な内容に基づいた豊かな感想が多く出ていました。全員を載せることはできませんので、その中からいくつかの声を見学実習の部を中心に載せて、結びにします。

はじめのものは、上の見学場面をよく表している感想です。

「講義よりも現場を見ることのほうが先だったので先入観なく、見学できたのが良かったです。子どもと高齢者が一緒に体操するのもよいですが、その後の高齢者の中で行きた

い人が保育室に行くというのに感心しました。抱きたい人と抱かれない人がお互いに満足できることと、ふれあうことを強制されないことでプラスに働くと思います。」「子どもと高齢者を別々とか、一緒とか頭で考えることよりも一緒にいることが当たり前であるという社会をつくるのが大切なんだなと思いました。地域住民がもっともっと世代間交流を知っていけるとよいと思います。」「誕生日会で子どもたちからの歌のプレゼントがあったが、誕生日会自体を一緒にやらないのはなぜかなと、尋ねてみたくなりました。」(u.t.さん)

「大人数での体操の時、お年寄りが子どもたちに負けまいと大きな声を出している姿に生き生きした力を感じた。」(n.h.さん)

「この夏、特養にボランティアでいったが、それに比べて、江東園でのお年寄りには本当に生き生きしていて楽しそうで素敵です。生きているってこういうことです。」「ただ交流していてもダメ、意図的な仕掛けが大切。遊び心が大事。」「とにかくやってみることが、何より素晴らしいこと」(u.i.さん)

「江東園の施設長さんが、『高齢者の死を見せることでいじめなどが改善されるのでは』と言ってらっしゃいました。そこで本当の思いやりが学べるという気づきがありました。」

(e.k.さん)「死について子どもたちと実際の体験を通して学ぶこと。こう言った経験はこのような場でないと絶対にできないし、必要なことだと思った」。(a.m.さん)

講義のほうについてもたくさん感動的な感想が出ていましたが、今回は、この辺でまた続きを載せさせていただくことにします。

(文責 金田利子)

■ 第5回 WHO ワークショップ開催 ■

6月29日(日)、東京都健康長寿医療センター研究所にて第5回東アジア-西太平洋地区高齢社会に関するワークショップが開催されました。「世代間交流と次世代継承」をテーマに、当研究所の社会参加と地域保健研究チーム藤原佳典研究部長を中心に、5か国の研究者から家族間を含めた世代間交流の実態や効果などについて発表がありました。米国ジョンズ・ホプキンス大学のリーボック教授からは、シニアが学校支援を行うボランティアプログラム「エクスペリエンス・コア」に関する報告がありました。タイのマヒドール大学のハック氏からはタイにおける老親と別居の子の関係などについてのお話がありました。韓国のハリム大学ユン教授からは、子から親へのソーシャルサポートの変化に関する報告、そして中国の万科企業株式会社のヤン研究員からは、都市部での高齢者の子育てへの関わりなどについて報告がありました。

社会参加と地域保健研究チームからは、村山陽研究員が、今年10年目を迎えるシニアの絵本読み聞かせプログラム「りぷりんと」の多面的な研究成果について報告しました。最後に、WHO神戸センターの狩野氏から、世代間連携の指針や、研究において大切な視点を国際的な見地から提示して頂き大変有意義な内容でした。研究所の研究員のみならず、他の研究機関や実践者にもご参加頂き、活発な意見交換がありました。

(文責 倉岡正高)



■ 日本世代間交流学会誌 Vol14. 編集委員会より ■

大変遅くなりましたが、お手元に『日本世代間交流学会誌 Vol4.』が、届いたものと思います。届いていない方は、事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

さて、本年も多くの会員の方々からご投稿いただき、編集に携わる者としてたいへん感謝をいたしております。あわせて、お忙しい中、投稿論文の査読にご協力くださった多くの先生方には厚くお礼を申し上げます。

このたびの学会誌編集におきましては、皆様のご協力をいただきながらも納期が大変遅くなり、ご迷惑をおかけいたしました。心より深くお詫び申し上げます。今後は、編集委員一同、気を引き締めて精進してまいります。どうぞ変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【2 活動予定】

■ ジェネレイションズ・ユナイテッド国際大会の開催 ■

2年に1度米国ワシントンD.C.で開催されていたジェネレイションズ・ユナイテッドの国際大会が、来年7月21日から24日にかけての大会は、ハワイで開催されることになりました。皆様ふるってご参加ください。

詳細は、下記のHPをご覧ください。

⇒ <http://www.gu.org/RESOURCES/Conference.aspx>

■ 日本世代間交流学会 第5回全国大会 ■

日本世代間交流学会 第5回全国大会が、以下の要領で開催されます。今大会では、「世代間交流が開く私たちの未来」をテーマに研究発表、学術的ならびに施策的側面からシンポジウムを行います。

日時： 2014年10月4日（土）

場所： 姫路商工会議所（於兵庫県姫路市）

交通機関（電車で）

- 山陽新幹、JR神戸線、山陽電鉄「姫路」駅下車
- 神姫バス：日出町行乗車…「商工会議所前」下車
- 鹿島神社行、夕陽ヶ丘行、別所駅行乗車…「坂田町」下車
- 徒歩：大手前通りを姫路城方面へ直進、交差点(大手前)を右折し直進、姫路市保健所を越えてすぐ

詳細は、下記の当学会ホームページにて、随時更新されます。

⇒ <http://www.jsis.jp/>

皆様ふるってご参加下さい。

■ 日本世代間交流学会第5回全国大会実行委員会事務局より ■

【3 出版物の案内】

■『世代間交流—老いも若きも子供も—』第13号、特定非営利活動法人日本世代間交流協会第6号の発行■

当協会の定期刊行物であるこの機関誌は、国立国会図書館の定期刊行物の指定を受けております。

■ 地域を元気にする世代間交流 ■

倉岡正高 編著 草野篤子、藤原佳典、杉啓以子ほか著
公益財団法人社会教育協会、4月中旬発行（900円）

世代間交流の意義、研究方法および実践事例について、分かりやすく解説した入門書となっております。世代間交流の研究者や実践家がそれぞれ豊富な経験と蓄積された研究成果をもとに執筆いたしました。なるべく多くの方に読んで頂きたい1冊です。

■ 『世代間交流の理論と実践』 (仮) ■

草野篤子・内田勇人・溝邊和也・山之口俊子・安永正史 編著

『世代間交流の理論と実践(仮)』(三学出版)の刊行に向けて、編集作業を進めております。進捗状況については、追って本ニュースレターにてご報告いたします。

【4 「会員の声」】

「会員の声」ということで、皆さまにご応募を呼びかけています。皆様のご意見や体験談をニュースレターに掲載したいと思っておりますので、世代間交流について思うこと、当協会について感じることなど、ご意見を以下のアドレスにお寄せ下さい。

[yhoyho05\[at\]tmig.or.jp](mailto:yhoyho05[at]tmig.or.jp) ([at]を@に変更してください)

今回は安永正史先生(東京都健康長寿医療センター研究所)のご研究をご紹介します。

● 世代間交流と高齢者イメージ (第1回) ●

- 一般的な高齢者イメージに対する世代間交流型社会貢献活動の効果 -

本稿では、世代間交流と子どもの高齢者イメージとの関連に関する研究を概観したうえで、本研究の意義について考えていきたいと思えます。

今回(第1回目)ご紹介する研究は、東京都中央区内にある1学年1クラス、全校で200名あまりの小学校で行った調査です。この小学校には、1クラスあたり月2回(年間18回)、朝の学級活動の時間(15分程度)に絵本の読み聞かせを行うために高齢者が出入りしています。

この小学校に高齢者が絵本の読み聞かせに入るきっかけとなったのが、東京都健康長寿医療センター研究所の藤原研究部長が中心となって2004年に始めた高齢者による絵本の読み聞かせによる社会貢献プログラム 研究事業名 REPRINTS : Research of Productivity by Intergenerational Sympathy) です。

調査の目的は絵本の読み聞かせによる高齢者の社会貢献活動の影響を高齢者イメージの変化から明らかにすることでした。図1はREPRINTSの参加の高齢者による絵本の読み聞かせ活動が開始された直後(R1)、開始から7ヵ月後(R2)、15ヵ月後(R3)の3時点で、全校生徒を対象に“高齢者イメージ”についての自由記述を求めた結果をテキストマイニングという手法を用いて分析・要約したものです。

分析の要点をまとめると、この図は、小学生が書いた全文章データの中から、名詞形容詞など2回以上書かれた単語を

抽出し、一緒に記述される(共起する)頻度が多かった単語ほど、2次元平面上で近くなるように専用の統計ソフトを使って描いたものです。図中の調査時期を示すR1、R2、R3に近いイメージほど、その時点で記述された回数が多いことを意味します。また、色がついたイメージは、他の時期に比べて、統計学的に多く書かれたことを示し、その時期を特徴付けるイメージと言えます。

図1に見られる小学生の高齢者イメージに起きた変化の要点は以下のとおりです。まず、R1では、「お金(をくれる)」や「ゲーム」、「買ってくれる」等、誕生日やクリスマスなど、イベントでの物品の授受を通じた祖父母との関係を示す記述が多く、高齢者ボランティアに関するイメージは見られません。次に、R2でも、「遊び」、「教えてくれる」など、やはり、祖父母との関係を示す記述が多く見られます。ただし、出現数としては2回以下と少ないのですが、「気をつかってくれる」「話しかけてくれる(図中なし)」「絵本」など高齢者ボランティアに関すると思われるイメージが出現しはじめています。さらに、R3に至ると、「読んでくれる」、「心をこめて」、「ゆっくり」など、「絵本の読み聞かせ」に関する記述が多く見られるようになりました。(次号につづく)

【5 その他】

「会員の声」ということで、皆さまにご応募を呼びかけています。皆様のご意見や体験談・エッセー・詩・俳句などを、ニュースレターに掲載したいと思っておりますので、世代間交流について思うこと、当協会について感じることなど、どのようなことでも結構ですので、ご意見を以下のアドレスにお寄せ下さい。
本号では協会員の方々の協力のもとで、世代間交流に関する学会や勉強会など

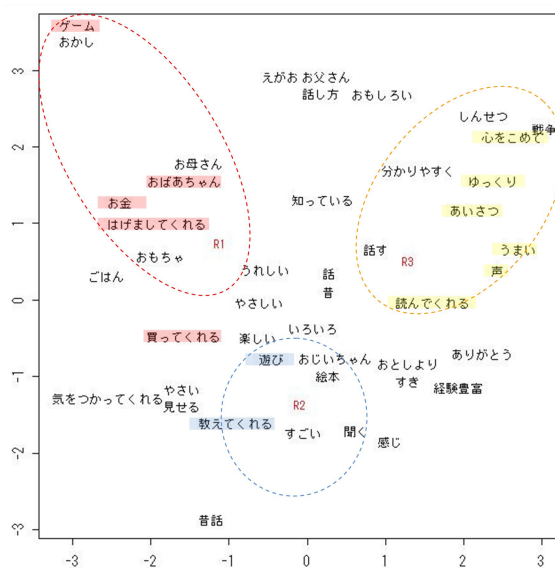


図1 高齢者イメージについての小学生の自由記述に2回以上出現した単語の分析結果

のレポートや感想を収集することができました。心より感謝申し上げます。今後ともご協力のほど、どうぞよろしく願いいたします。

【6 次号（12月）の予定】

1. 活動報告
2. 活動予定
3. 会員の声
4. その他

【編集後記】

今月のニュースレターは、いかがでしたでしょうか。
次号も、どうぞよろしく願いいたします。

ご返信は、[yhoyho05\[at\]tmig.or.jp](mailto:yhoyho05[at]tmig.or.jp) ([at]を@に変更してください) にお願ひします